

# 日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木県支部会報 2013.03.31

NO.18

- 第22回支部研究発表会レポート  
コメンテーター 伊澤 裕 先生
- 第23回支部研究発表会レポート  
コメンテーター 毎澤 典子先生
- カウンセリング特別講座・合同研修会  
「少年事件の現場から」 講師 和泉 聡 先生 (朝日新聞宇都宮総局長)
- 精神医学特別講座・合同研修会  
「思春期に出やすい心の病気」 講師 森 克己 先生 (森クリニック院長)
- 発達障がいセミナー  
「発達障害といじめ」 講師 山岡 祥子先生 (臨床心理士)
- ガイダンスカウンセラー会第2回研修会報告
- 事務局からお知らせ

## ○ 第22回支部研究発表会レポート

コメンテーター 伊澤 裕先生

2012年10月20日(土)、教育会館小会議室において「第22回支部研究発表会」が開催された。今回の発表者は2名で、コメンテーターは伊澤裕先生が務められた。

- \* 宇都宮市陽東小学校 阿久津孝子氏
- \* 茂木町立逆川小学校 渡辺恭子氏



今回の発表から、大変刺激を受けるとともに、たくさんの元気をいただきました。これからも多くの皆様にご参加いただきたいと思います。

(中島 正己 記)

## ○ 第23回支部研究発表会レポート

コメンテーター 毎澤 典子先生

2012年11月10日(土)、教育会館小会議室において、コメンテーターとして毎澤典子先生をお迎えし「第23回支部研究発表会」が開催された。

- \* 宇都宮市富屋小学校 池田清恵氏
- \* 栃木市赤麻小学校 望月 都氏

(中山 芳美 記)

## ○ カウンセリング特別講座・合同研修会

### 演題『少年事件の現場から』

講師 和泉 聡 先生 (朝日新聞宇都宮総局長)

平成24年12月1日(土)、教育会館5階にて朝日新聞宇都宮総局長和泉 聡氏を招いて講演会が催された。

和泉氏は、長らく海外勤務をした後、朝日新聞の天声人語の編集にも関わるなど、興味深い話をされた。中でも、我々教育関係者に対して発せられたいくつかの言葉が忘れられない。和泉氏曰く『『地どり』『勘どり』を大切にせよ』と第一声。これは取材用語らしいが、“理屈で攻めてはいけない”という鉄則を話されたのだろう。理屈で攻めれば攻めるほど、こじれるという意味合いもあるのかもしれない。教育相談面接を常とする我々には、感情的な対立がもっとも厄介と言える。それを示唆した和泉氏の言葉は重い。

耳が痛かったのは「名刺を持たない学校の先生は、世間ずれしている」という言葉だった。思い当たる節もあるのではないだろうか。“社会常識を持って”と叱咤激励された思いがした。 (八島 禎宏記)

## ○ 精神医学特別講座・合同研修会

### 演題『思春期に出やすい心の病気』

講師 森 克己先生 (森クリニック院長)

平成25年2月2日、栃木会館大ホールを会場に、森クリニック院長森克己先生をお招きして『思春期に出やすい心の病気』を演題に講演が行われた。初めに、ライフステージ、ライフイベントと精神障害についての話があった。主なものとして、小学校から中学校にかけては広汎性発達障害的なものが見られ、中学校からの思春期の頃からは対人恐怖、社会恐怖、摂食障害、統合失調症、パニック障害、双極性障害、うつ病性障害などが発症し始め、年齢を重ねるにつれて認知症が現れてくる。以上の内容を、縦軸に発症しやすい精神障害、横軸に年齢というグラフに示してください、どういった精神障害がいつ頃から発症してくるかという話を先生が具体的に始められた。満席に埋め尽くされた会場の視点は一点に吸い寄せられるように集中していった。先生は思春期に出やすい心の病気の主なものとして、神経症性障害、気分障害、統合失調症、摂食障害、パーソナリティ(人格)障害の5つをあげられた。そして、そのメカニズムについてそれぞれ症例を用いて、その症状と原因、治療について時間をかけてわかりやすく説明くださった。最後に先生は思春期の症例に対して、〈対等な人間として接する〉、〈診断は慎重に〉、〈薬物療法は控えめに〉、〈自然治癒力を大切に〉、〈本人の意向を尊重する〉という5つのポイントを提示され、「学校だけがすべてではない」と述べられたことが印象的である。 (馬場 友治記)

## ○ 発達障がいセミナー

### 演題『発達障害といじめ』

講師 山岡 祥子先生 (臨床心理士)

平成25年2月23日(土)青年会館1階の中会議室において教育研究所の臨床心理士である山岡祥子先生を講師にお迎えして発達障がいセミナーが行われました。



山岡先生は学校現場で発達障害を持つ児童・生徒と関わり、多くの事例を踏まえながらこれらの子どもたちが受けるいじめについて『発達障害といじめ』と言う演題で10時から4時までの講義をしていただきました。この講座は、有料の研修にも関わらず定員数30名のところ定員を越える41名が参加しました。このことは今回の演題が教師にとって最も難しい「発達障害」と「いじめ」と言う内容であり、それを山岡先生は自ら関わった事例をもとに話されるこの講座への関心度の高さの現われ

だと思いました。

前半は、パワーポイントを主体にDVDと先生の事例を交えながら進められました。研修は参加者に考えてもらう様な形式で行われ、文部科学省の「いじめ」に関する定義が変わり、これにASD(自閉症スペクトラム障害)の子どもたち「特有のいじめ」があることを知り考慮しなければならないことから始まりました。ASDの子どもが『いじめの標的になる子(いじめられっ子)』になる場合は、①受身ターゲットタイプ(受動型の子がなりやすく、慢性的にいじめを経験している可能性が高く、自らいじめを挑発することは決しないタイプ)と②誘発ターゲットタイプ(積極奇異型の子がなりやすく、悪意が無いまま相手を挑発したりイライラさせたりする言動が多いタイプ)があること。また、これらの子どもたちは、「現在の時点ではいじめられていると認識して無くても成長の過程で自分がいじめを受けていたことを後から知ってしまう」ことや「いじめを受けた経験を忘れにくい」事などを話されました。後半は、「いじめの標的になっている子どもの支援」、「大人のできるいじめへの有効な対策」、「学校全体でいじめ防止プログラムの実施」「いじめの加害者への支援」などについてSTEPを踏んで話されました。今回の講座を通して参加者一同は、いじめに対する認識をさらに深めることができた研修だったと思います。(藤浪 直紀 記)

### <四県合同研修会を開催して>

本講座は山梨、群馬、埼玉、栃木の4県合同の研修会として企画したため、少しでも多く他県から参加していただくために10月中旬には栃木県以外の3県の事務局に周知することを心がけました。その甲斐あって、他県からの参加者も含め、定員を大きく上回る方々からの参加があり、大変うれしく思っていました。山岡先生のご講義の内容も皆様の期待に沿う充実したものでした。「発達障害といじめ」という題名ではありましたが、「いじめ」そのものに対しての大人としての姿勢を問いただされる機会ともなったように思います。時流に合った内容であったことももちろんですが、参加された受講生の熱心な姿勢に感銘いたしました。(事務局 谷津 嘉子)



## ○ ガイダンスカウンセラー会第2回研修会報告

3月16日(土)とちぎ青少年センター第1研修室にて平成24年度ガイダンスカウンセラー会栃木支部第2回研修会が伊澤成男先生の司会のもと、開催された。

今回の研修会は教育現場の先生の立場から「ガイダンスカウンセラ

ーとして」活動中の二人の先生の実践報告が行われた。

前半は、学校カウンセラーでもある足利市立青葉小学校長の影山憲一氏が「ガイダンスカウンセラーを生かした学校経営」という題名で学校経営のグランドデザインとして、地域と共に創造する青葉の教育、すなわち「子どもも先生も家族も みんな元気のでる青葉小を目指して」になるという教育目標を掲げ、特別支援教育と人権教育を基底とした基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けた児童の育成という本校の教育課程の紹介があった。そのような中で、PTA 活動、保護者関係者との連携、教育課程の研究・開発（近隣小学校、中学校との連携）、地域（自治会、育成会、敬老会）とのつながりを担うガイダンスカウンセラーとしての役割が紹介された。フロアからの質問で SC に求めるものは何かとの質問に対して、ともすれば忙しい職務を分かり合える身内意識のような感覚で教職員が馴れ合うことを防ぐためにも SC の外部性と専門性を活かした客観的なアドバイスは重要である。そのような役割が SC に求められるとのことであった。

後半は認定カウンセラーの基礎資格を持つ佐野市立植野小学校教育相談担当の熊倉志乃氏が「ガイダンスカウンセラーとしての役割～公立小学校での取り組みをとおして～」学級担任としての取り組みとして、構成的エンカウターの実践、友達の和には入れない低学年の児童に応じた工夫としての対人関係ゲームとか、学年間に取り組みの輪を広げる実践を資料を提示して紹介した。また、教育相談担当として相談室だよりやスクールカウンセラーとの連携として子どもの情報を必要に応じて共有すること、教職員とスクールカウンセラーをつなぐ役割として新採用の先生の面接の設定や教育相談係としてコンサルテーションすること、そして、地域の人材活用の実践などが紹介された。また、スクールカウンセラー活用事業へのアンケートを行ったり、ガイダンスカウンセラーとしての実践報告がされた。

最後に、日野先生からまとめと講評がされた。その後、スクールカウンセリング連絡協議会の設立趣旨は、学校教育に役立つ「子どもたちの発達課題を解き、成長を援助するスクールカウンセリング」を有効に機能させるために参加団体が協力することであるとの説明があった。また、ガイダンスカウンセラーの役割については、学習面ではなぜ学習にやる気が起きないのか等のアセスメント、進路では興味・関心・適性などのキャリアについて、そして、問題行動の解決、集団に対してのエンカウター、福祉や健康の問題にも言及できることが求められているとのことであった。さらに、ガイダンスカウンセラーとして専門家と教員をつなぐコーディネーターとしての重要な役割も付け加えられた。

また、スクールカウンセリング推進協議会の委員でもいらっしゃる日野先生が本年度、第1回ガイダンスカウンセラー資格認定試験が10月14日に行われ、皆、優秀な受験生だったとの報告がされた。

(谷津 嘉子 記)



○ 事務局からお知らせ 平成25年度事業計画(案)について

開催期日	事業名	会場	備考
6月1日(土) 総会 13:00~ 講演 13:30~	【第23回総会およびカウンセリング特別講座】 講演「学級経営に生かすカウンセリング」 講師 有村 久春先生	栃木県教育会館 5F 小ホール	帝京大学 こども学部教授
8月9日(金) ~11日(日)	【日本学校教育相談学会第25回総会・研究大会】 大会テーマ「一人一人を認め 育て つなぐ 学校教育相談」 記念講演「人と人とのつながりや思いやりを育てる学校教育相談」 講師 兵庫県教育研修所 心の教育総合センター長 富永良喜先生 特別講演「人との関係を作るソーシャルスキル―接近化スキルと距離化スキル―」 講師 岐阜大学教授 宮本正一先生 【第14回夏季ワークショップ】 詳しくは本部のご案内を参照ください。	岐阜県 朝日大学	参加申し込み 7月26日(金) 18:00まで インターネットか FAX・郵送で
10月12日(土) 13:30~16:00	【第24回支部研究発表】 発表者を募集しています	栃木県教育会館 2F小会議室	
11月9日(土) 13:30~16:00	【第25回支部研究発表】 発表者を募集しています	栃木県教育会館 2F小会議室	
12月7日(土) 13:30~16:00	【カウンセリング特別講座・合同研修会】 講演「子どもは未来からの留学生」 講師 中山 昌樹先生	栃木県教育会館 5F小ホール	白鷗大学講師
1月 日( ) ~日( )	【日本学校教育相談学会・中央研修会】 未 定		
1月25日(土) 10:00~16:00	【発達障がいセミナー】 感情のコントロールなど 講師 山岡 祥子先生	栃木県教育会館 1F 中会議室	臨床心理士
2月1日(土) 13:30~16:00	【精神医学特別講座・合同研修会】 講演「女性のためのやさしい精神医学」 講師 加藤 和子先生	栃木県教育会館 5F小ホール	さくら・ら 心療内科

日本学校教育相談学会栃木支部共催事業

開催期日	事業名	会場	備考
8月6日(火) ~8日(木)	共催 第12回 箱庭療法研修会	鬼怒川温泉 ホテルたかはら	主催 箱庭 療法研修会

日本学校教育相談学会栃木支部

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館内  
栃木県教育研究所相談部

日本学校教育相談学会栃木県支部事務局  
(事務局 谷津 嘉子・中山 芳美)

TEL 028-621-7274 FAX 028-627-5682

E-Mail : [soudan@trk.jp](mailto:soudan@trk.jp)

(発行責任者 丸山 隆 / 広報担当者 藤浪 直紀)